聞イテミル・考エテミル！？

がん研究の今と未来：ゲノムデータの共有って何のため？

乳がん編ー遺伝性って何だろう？

日時

2017 年 12 月 9 日（土）

講演の部　１３時～１４時４０分（１２時４０分開場）

三木義男　氏　（東京医科歯科大学難治疾患研究所）

川嶋実苗　氏　（JST バイオサイエンスデータベースセンター）

高島響子　氏　（東京大学医科学研究所）

対話の部　１５時～１７時頃

どなたでもご参加 OK！（無料）

場所

東京大学医科学研究所　１号館（１階講堂他）

東京都港区白金台 4-6-1

地下鉄南北線・三田線白金台駅２番出口より徒歩３分

構内地図　http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/access/campus/

※会場は地図の⑨１号館です

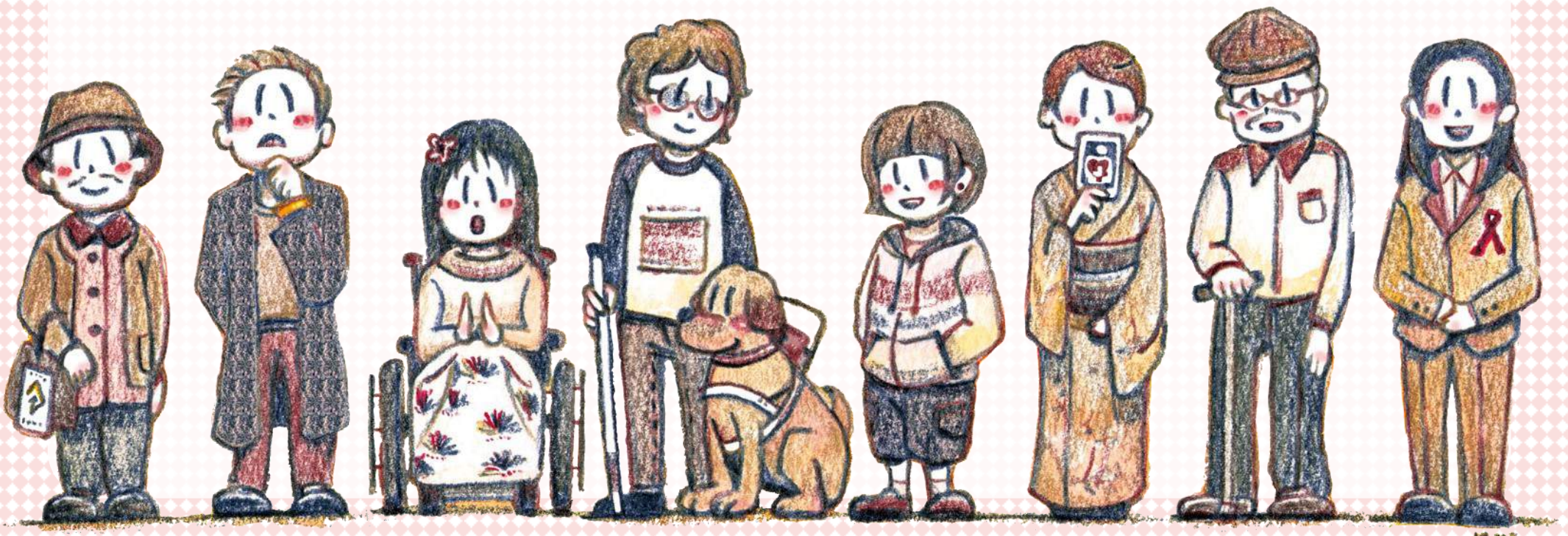
申込み先

下記の申込サイトから必要事項を添えてお申込みください

http://kokucheese.com/event/index/495833/

問合せ先

jhigashi@yamaguchi-u.ac.jp　（担当：東島, 山口大学）



本企画は「聞イテミル・考エテミル？！『がん研究の今と未来：ゲノムデータの共有って何のため？』」実行委員会が，科研費「ゲノム解析の革新に対応した患者中心主義 ELSI の構築」/「責任ある研究・イノベーションの実現に向けた日本の研究者と疾患当事者の関係構築」の支援で行います。

ゲノムって？

　がんは、DNA（遺伝子）の異常による病気です。人間の身体の細胞一つ一つの中に、そしてがん細胞の中にも、DNA が入っています。この DNA には、私たちの身体を作るための情報が含まれています。人間を一人作り上げるために必要な情報全体のことを**ゲノム**と呼びます。

乳がん研究？

　今、がんの解明や治療のためにゲノムを調べる**がんゲノム研究**が注目されています。がんゲノム研究のめざましい進歩によって、病気と遺伝情報の関わりが明らかにされつつあります。

　しかし、たった一人のゲノムからわかることは多くありません。がんについてより深く調べるためには、何千人、何万人分もののゲノムデータを研究する必要があります。

　そこで近年、複数の研究で得られた情報をまとめて、他の研究者も利用できることを目指す**データ共有**の取り組みが進められています。

データ共有？

　一つ一つの研究で扱うデータは数十人分でも、データ共有によって、何十万人ものゲノムを調べられるようになります。そうすれば、より正確で役に立つ成果が、早く得られるかもしれません。一方で、データ共有を進めるためには、セキュリティの確保や個人情報の保護も大切です。

　「がん研究の今と未来：ゲノムデータの共有って何のため？」＜乳がん編＿遺伝性って何だろう？＞では、まず前半の**講演の部**にて、乳がん研究やゲノム研究の最前線で活躍される専門家をお招きし、治療や研究を巡るゲノムデータ共有の最新情報をお届けします。

何のため？

　さらに後半の**対話の部**では、私たちのゲノムデータが研究に使われたり、データ共有されることが、なぜ必要なのか？データ共有はどのように医療に役立つのか？どんな配慮が必要か？について、周りの参加者や第一線の研究者と気軽に語り合う場を設けます。出てきた論点は研究現場に役立てることを目指します。

　この機会に、がん研究の今と未来はどうなるのか、私たちのゲノムデータが活用され社会や医療に還元されるにはどうしたらよいのか、一緒に学び、語り合ってみませんか？

　どなたでもお気軽にご参加ください（参加無料）。